片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL 0258-84-3246
FAX 0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

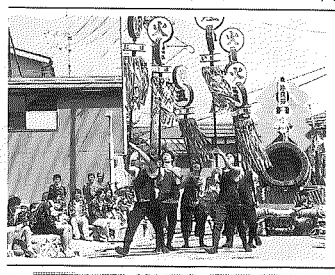
JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

燃えた！揚がった！酔った！
片貝まつり大盛況
しかし、成人いじめが復活か!?

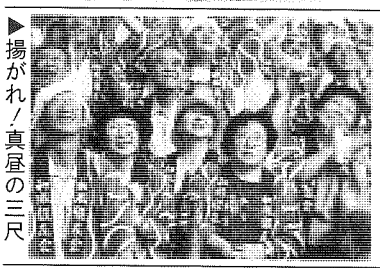
浅原神社秋季大祭の片貝まつりは、9月9、10の両日、奉納花火大会を中心に伝統の筒引き、玉送り行進など多様な行事が行なわれた。両日共天候に恵まれたこともあり、ドッと人出が繰り出し大賑いだった。特に10日は午前1時頃まで自動車の渋滞が続いた。

世界一を自認する四尺玉花火は、昨年二発共開かずに失敗したが、今年は見事に開花、埋めつくした桟敷席や境内で大きな拍手が起きた。その他、成人、33歳、42歳、60歳など人生の節目に同級会で揚げる大型スターマインも観衆を魅了した。

花火を見ていた神奈川県の若い男性が、アゴの関節をはずして救急車で長岡市の病院に運ばれるハプニングも。大人男性の急性アルコール中毒の搬送も一件あった。



昨年問題となった中学生の飲酒は、今年は影をひそめ、関係者は胸をなでおろした。変わって、数年来見られなかった成人いじめが表沙汰となり、問題提起の形となった。



▶揚がれ！真昼の三尺

片貝まつりに思う
成人いじめを目撃して

四之町　名塚孝一

今年の片貝祭りは好天に恵まれ、新聞によると十七万人の人出でにぎわったとのこと。今年はいろいろな問題を残した祭りといえるのではないだろうか。そのうちの一つが成人イジメの〝復活〟だと思う。

私が目撃したのは神社前から屋敷クラブまでである。その間屋台の衝突三回、神社前ではけり合いから「まち組」の半天をきた成人が腹を殴られたらしく、うずくまっていた。横山さん前とクラブ前では屋台にとびかかり屋台を壊しにかかる。最初は、もう成人イジメはしないはずなのにと思ったし、頃合いをみて手打をするのではと思ったが、屋台を壊しにかかったので、私は偶然隣にいた「て組」の小若の世話人と黙って見ていた実行委員会のトップの人に「やめさせてくれ」と頼んだ。その後そのトップの人がどうしたか知らないが町裏でもやられ一ノ丁でもやられたと聞いた。ともあれ毎年こんなことを繰返していたのでは、祭りがダメになる。年々成人が少なくなるし、これはテレビに出た時言ったあいさつでもなんでない弱い者イジメにほかならない。今年の成人は来年は仕返しをしてやろうなどと思ってはならない。

片貝祭りはよその町がうらやむように若い人が大勢参加して二日二晩祭りによいしれる。この祭りのしくみを片貝の先人達がつくってくれた。つまり年令順に若、小若を組織して各町内でお盆がおわると有志をし、花を作ってシャギリの練習をし、玉送りをして煙火を奉納する。そして次の世代に受けついでいく。決して同じ人が何年もやるようなことはない。

町内の人も若、小若に全幅の信頼をおいている。その証拠に他の団体には会計報告を求める声があるが、若、小若にその声はないはずである。成人イジメに使うエネルギーをシャギリや木遣の練習にむけてもらいたい。各町内の若、小若が片貝祭りの原点だと思う。小さい時からシャギリの音を聞き木遣を唄い、そしておぼえる。

しかし現実は交通事情や時間の関係で昔のように木遣を唄って門付けをしなくなり、最近は十日の夜の玉送りもなくなったりしている。それだけ木遣を唄う回数がへり、おぼえられなくなり、片貝の木遣がよその木遣になってしまった。

これは若い人だけを責めるわけにはいかないと思う。片貝祭りもテレビ放映で変わったと思う。そして四尺玉打揚でまた変わったと思う。秘境の温泉がマスコミにのったばかりに、俗化してダメになっていく話を耳にするが、片貝祭りもそんな道をたどっているように思われてならない。

少子化とあわせてそのうちに花火だけがあがってあとは何もない祭りになるのではと思うのは私だけであろうか。片貝祭りは、おぢや祭りなど役所がやる祭りとは違って、神社の祭である。昔と同じことをやるから意義があるのではないだろうかと思っている。時代の流れでできない面もあると思うが、できるかぎりの伝統はうけついでいかなければならないと思うのである。

祭り終って

今年の片貝まつりは平日にもかかわらず十七万人もの人を集め、昨年は不発に終り並みいる観光客をがっかりさせた四尺玉も、今年は打って変わり二発共見事に大輪の華を咲かせ文字通り世界一の座を確保した。

この華やかな裏には関係者の並々ならぬ労力や筆舌に尽くしがたい努力があったことと思う。またこれらの祭りに陰に陽に目立たない存在で総鎮守の祭りということで、ともすれば迷惑すら感じながらも協力を惜しまなかった町民の姿も忘れることはできまい。

例年と違い片貝まつりも多少変化を兆しつつあるようだ。今まで祭りに対する批判は反対者とみなし、これを全く無視したり或いは除外する風潮にあった。本紙に対しても数多くの意見や批判の投書・電話が寄せられてきていたが、残念ながら名前が書かれてなく責任の所在上載せなかった。（今後は名前を提示したうえでの匿名はその意向に添う）その点前回、今回とも名前を出しての意見の表明は今までなかったことで、これまでの閉ざされた片貝の環境から考え大変勇気ある行動だと思う。

ことに今年は初めて四尺玉の募金を全町民に求めたが、一之町X生氏の投書『エスカレートし過ぎた「片貝祭り」』によれば、三、四尺玉花火打ち上げの募金に至ってはやり方が言語道断で、もともと四尺玉を打ち上げたいと言う有志が始めたことであって、町民の総意でスタートした訳ではない。お金が足りないからといって町民に寄付を募ることは短絡過ぎる発想である。事前に町民の合議を経て、上げるか否かを決めるのが筋であろう。という意見を寄せているが、前回小欄でも民主主義というのは手間暇のかかる制度で…と指摘したことである。また、片貝祭りは浅原神社秋季大祭であって、町民が浅原神社に花火を奉納して幸せを祈願する町民の祭りだと思うが、いつの間にか年々エスカレートして、商業化し、花火も町民が持て余す所迄来てしまったことや、各クラス会の花火の大きさを競うことにも、また煙火協会の運営や会計報告などにも触れており何れも今まで指摘されていることである。

今後これら一連の行事に遭遇するクラス会も、あまりにも高額な会費の徴収は目的とする和や親睦を損ねかねない。片貝の常識は世間の非常識、昔の諺ではないが分に応じた金額にすべきである。

煙火協会はもとより最近は実行委員会も大いに活躍し組織も充実してきたように見受ける。もっとも組織の長である会長の力はあまりなく実権がどこにあるか不明だが……。来年は土、日曜という絶好の祭り日に恵まれ大混乱が予想される。

関係者の労苦を思うとこれらの小さな事柄にも耳を傾け一層充実した祭りとなり町民の誇り得る楽しむことのできる祭りにしたいものだ。終ってみたら何のご利益もなく町民に残されたのは大量のゴミと喧騒だけといったことにならないよう希望したい。

主張

市議会一般質問
安達市議が登壇

市議会の市政に対する一般質問が9月20、21の両日開催され、片貝町からは安達稔市議が登壇した。また、五辺の大平貢市議も農業問題について質問した。安達市議の質問要旨は次のとおり。

安達稔市議

㈠自治省は市町村合併構想を打ち出し、都道府県にそれを推進すべく指示を出しているが、県の方から市長に何か言ってきていることがあるか。市長自身の合併についての考え方を聞かせよ。

㈡道路交通法改正により、来年4月1日から6歳未満児のチャイルドシート着用が義務づけられる。子育て支援の立場から、購入に対しての補助金、あるいはリサイクル等何らかの支援策を考えたらどうか。

関広一市長

㈠県からは何も言ってきてはいない。知事は机上での線引きは好ましくない、と発言したということは承知している。私としては小千谷市が他市町村に合併されるということは考えていない。他の市町村が小千谷市に合併したいということであれば歓迎である。いずれにしても慎重に進めるべきことであり、県の何らかのアクションを見てから対応して行きたい。

㈡財政難の折、またランドセルが高価な品から売れたり、子供がブランド品の服を着たりの現状をかんがみる時、補助金は考えていない。資源の有効利用という観点から、リサイクルショップでの取扱いが良いと考えており、行政として手伝えることがあるかどうかを考えて行く。

敬老会近づく
3日　片小南体育館で

片貝町協議会（会長吉井陽）では片貝町敬老会を10月3日㈰午前10時から、片貝小学校南運動場で開催する。

当日は式典に引き続き片貝保育園、片貝小学校、ヤヨイ大学民踊部、めぐみ会、三友会、民踊の会、片貝伝統芸能保存会などが演芸を行うので多数の出席を…と主催者。なお、今年の該当者は（9月16日現在）昨年より二十五名増の九百六十二名、片貝町最高齢者は明治33年3月16日生まれの堀井トヨノさん（町裏5区）で、九十才以上が三十二名（昨年30名）、米寿が十七名（昨年十七名）、喜寿が五十六名（昨年42名）と年々増えている。

▼**秋の陶芸教室**（片貝公民館主催）が五回開催される。いずれも、午後7時20分から午後9時30分まで、会場は片貝公民館二階ホールで、講師には片貝陶芸クラブを指導している、小千谷市上ノ山在住の佐藤守さん。参加料は二千円。各人が手ぬぐい、エプロン、ビールの空缶、木の葉、草の葉、皿等を用意。「この陶芸教室での作品を11月の片貝総合文化展に出展しますので、参加者の力作を！」と関係者。日程と制作内容は次のとおり。

▽1日金曜日＝板づくり
▽7日木曜日＝ひもづくり
▽8日金曜日＝高台づくり
▽15日金曜日＝てびねり
▽26日火曜日＝色付け

なお、お問い合わせは片貝公民館☎84－2026へ。

▼**第53回片貝町民運動会**（スポーツ・フェスティバル）が10月の第3日曜日の17日午前9時から片貝中学校グラウンドで開催される予定。

▼**読みきかせ**　小学校低学年を主な対象に、絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の「読みきかせ会」の10月の活動予定は、1日㈮午後3時30分～、9日㈯午前10時～、15日㈮午後3時30分～の、三回いずれも片貝ふるさと会館で開催。

▼**リサイクル**＝リサイクル資源の再利用を目指して地道な活動している、リサイクルかたかいは、3日午前9時から9時30分まで、10月の収集活動を片貝支所前で実施する。発泡スチロールトレイ、乾電池、ボロ布、新聞紙、ダンボールなど。

黒崎敬湶氏の墨游会作品展
横浜で7日～12日

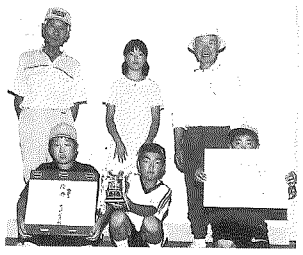
片貝町出身で東京在住の書家、黒崎敬湶（本名＝敬五郎）氏が主宰する墨游会の作品展が、10月7日から12日まで、横浜市中区桜木町の桜木町駅前の、ぴおシテー三階「ゴールデンギャラリー」で開催される。

老人・子供交流ゲートボール

平成11年度第16回片貝老人クラブ・子供会交流ゲートボール大会（主催＝片貝公民館・主管＝片貝町ゲートボール協会）が去る8月28日㈯午前8時30分から、改修工事が終わったばかりの片貝スポーツセンターで開催された。

当日は町内単位で9チーム（1チーム、老人2、小学生3・補欠3）72名の選手が参加して熱戦が繰り広げられた。参加チームは二つのコートに分かれ予選リーグを行い、第一コートから町裏Bチームと五之町Aチーム、第二コートからは第一ヤヨイチームと町裏Bチームの4チームで決勝トーナメントが行なわれ、五之町Aチームが優勝した。成績は次のとおり。

①五之町Aチーム（浅田正二、吉井保、清水トミ＝以上老人クラブ、吉原雅俊、吉井和樹、石上清成、野中知美＝以上小学4年生）、②町裏Aチーム、③第一ヤヨイ会子供会チーム、④町裏Bチーム



かたかい春秋

片貝まつりが終わった。天候にも恵まれ、四尺玉が有名となり、また一度訪れた人がその奇祭ぶりに魅了されて常連となるなど、片貝町は県外ナンバーが目につき、ドッと人出が繰り出した。▼今年は四尺玉も見事に開き、何よりであった。昨年問題となった中学生の飲酒問題も、学校を初めとする関係者の努力で、今年は影をひそめた。近年はペットボトルに酒を詰めかえて飲んでいるとのことで、アル中毒死する事例をひくまでもなく、命にかかわる問題だけに関係者の努力が必要であろう。▼あちらがよければこちらがたたず。成人いじめが〝復活〟してしまった。それもまつりの幹部責任者がその場にいて、周囲に注意しろ、と促されたとのこと。現場に居合わせたわけではないので、軽々なことは言えないが、もしそれが事実としたら、何をか言わんやである。今号に名塚氏が、その問題について寄稿してくれている。▼せっかく全国に名をはせる祭りになったと言うのに、成人いじめは恥ずかしい限りであり、きちんと正面から取り組まねばならない問題であろう。主催者を中心として、町民全体で是正してゆくべきだ。▼秋真っ盛りである。稲刈りもほぼ終わり、金黄色のジュウタンが消え去り、何となく物寂しげな田園風景となってしまった。文化、芸術、読書、実り、スポーツなど様々な秋である。〝○×の秋〟と称されるこの時季は、何となく不思議な心地となってしまう。何故、様々な〝○×の秋〟なのだろうか。ともあれ、お互い充実した秋にしたいもの。運動会、文化祭、駅伝も行なわれる。

佐平治まつりに勢揃い

佐藤家直系、仲立ちの子孫、市長、町長等

8月25日　結東地区で盛大に開催

昭和61年8月に設定され今年で第14回を迎えた佐平治祭り（感謝祭）が、去る8月25日津南町の結東地区（旧秋山郷の結東村）で開催された。関広一小千谷市長、吉井陽協議会会長、吉原正幸市議それに外丸村の庄屋・福原新左衛門の直系ではないものの子孫の福原博夫片貝小学校々長、佐藤家分家の佐藤完二郎さん等20名が現地を訪れた。又、今年は佐藤佐平治の直系で27代当主の佐藤忍さん（昨年没）の長女で現在鎌倉市在住の戸塚信子さんが夫と子供達家族8名で初めて結東地区を訪れ、佐平治祭りの式典に参列、懇親会にも出席して、結東地区の人々から暖かいもてなしを受けていた。

当日は佐藤佐平治翁の碑の前で、午後1時から神事が行なわれ、地元から小林三喜男津南町々長を初め各地区代表40名前後が式典に参列、席上小林町長は「小千谷市長を初め佐藤家、福原家の因縁深き人達が一堂に会して、式典が行なわれることは喜ばしい事」と挨拶。つづいて挨拶した関市長は「結東の人達が佐平治翁の遺徳を偲んでくれることは、大変ありがたいことです。旧佐藤邸も町民のふれあい公園に生まれ変わりました。皆さん方も来町のおりには、是非お立寄り下さい」とPR。また、突然の指名でとまどいながらも福原校長が挨拶。（別記・福原流秋山紀行）

神事に引き続き午後2時から秋山郷結東温泉「かたくりの宿」で懇親会が開催され、挨拶に立った佐平治祭りの発起人の一人の山田一幸さんは「当初の目的の一つであった、小千谷市の市長と津南町の町長の太いパイプが14年目の今年、初めて出来たことが、非常にうれしい、この太いパイプをこれからも長く続けてほしい」と語った。また、今年も懇親会が終わりに近づくと、山田町議親子による「秋山おけさ」（このおけさは山田一幸さん作詞、作曲によるもので本人達は「山田おけさ」と言っていた。）が披露。フィナーレは片貝の木遣りが山口伝統芸能保存会々長の音頭で始まると会場にいた全ての人が立ちあがり肩をくんでの大合唱となり大変な盛り上がりであった。

今年もまた、浅原神社秋季大祭の9月10日には結東地区の人達30名前後が片貝町を訪れ、結東地区佐平治翁をまつる会が尺玉を、佐平治祭り世話人の滝沢宏さんが奥さんの一周忌追善供養に尺玉を奉納して、夜空に咲く豪華な花火を楽しんでいた。

『福原流　秋山紀行』

片貝小学校校長　福原博夫

私と秋山郷との出合い、それは昭和三十五年に始まった。

外丸中学校三年のとき、小赤沢から苗場山に登った。大赤沢分校に泊まって、一泊二日の苗場山行であった。

次に秋山を訪れたのは、昭和三十六年、高一のとき。吉野さんの逆巻温泉での生物部合唱。スギタニルリシジミとカメムシの思い出。

三回目は、高二の昭和三十七年、鳥甲山登山。友人と二人、和山温泉までホンダベンリー百二十五ccで入った。砂利道に足をとられ二度ばかり転倒しながら?…。仁成館に「最低料金で泊めてください」（たしか七百円だった）。翌朝中津川をカゴ渡しで渡り、鳥甲をめざした。白嵓の頭でクマの爪あとにおびえ、カミソリ岩の渡りにおびえ、登頂後下りのルートに選んだ白沢の落石におびえ、今思うと血気盛んな登山であった。

昭和三十年代から四十年代前半まで、たくさん秋山を訪ねた。純白の石南花が切明のどこにあるかも分かる。私は秋山にとりつかれていた。何がそうさせたのか分からない。当時の、まだ秋山そのものだった「秋山郷の原点」にひかれたのかも知れない。

あれから三十余年後。今片貝に赴任して、佐藤佐平治と福原新左エ門と秋山郷のつながりを知ったとき、「何か」を感じ始めている。それは、思想にまで及ぶかも知れないアブナイつながりなのである。

◀佐平治まつりで挨拶する校長

八月二十五日、片貝の人たちに連れられて、久々に秋山を訪ねた。「佐平治まつり」参加のために。

バスの窓から見る風景に昔が鮮明に蘇る。そして発展した秋山の里に目を見はる思いが募る。秋山郷が単になつかしくて参加した私であったが、本音は少しセンチメンタルになっていたかも知れない。

しかし、結東に着いて気持ちは一変した。

佐平治まつりの神事で、なんと最前列に座れという。関小千谷市長さんや小林津南町長さん、佐平治翁直系の戸塚さんたちと並んで座れというのである。

断った。でもだめだった。加えて玉串奉納を市長さんより先に行え、という。私のセンチの気持ちはいっぺんに吹きとんだ。上着を持ってこなかった自分を悔いた。

さらに、あらぬことか、挨拶までせよという。突然のことで、シドロモドロ次のような話をした。

「私の実家にある過去帳などで、福原新左エ門を調べてみました。旧外丸村にある、福原のルーツは、重屋家と志茂家で、徳川時代に庄屋株になった家です。重屋家が本庄屋で、志茂家は兄隠居の家で相庄屋という時代に志茂家から分家に出ました。福原新左エ門が、重屋家なのか志茂家なのか今は分かりません。私は分家の筋なので、直系ではありません。ただ、逆のぼっていけば新左エ門に当たるとは思います。私の祖先が佐平治翁と結東に縁があったことを、片貝に赴任して知りました。佐平治翁の精神を片貝小の教育の中に生かしていくことが、私の勤めだと思います。」（附記・新左エ門は、庄屋富次郎の子。天保五年没で、戒名は「直翁玄指居士」であると知った。早速調べてみたい）

一時間後、冷汗をかきながらの神事が終わった。ホッとした。さあ、これから秋山のごちそうが食べられるぞ、津南の地酒が飲めるぞと大喜びで会場の「かたくりの宿」に入った。

ところが、またまた、上座に座れという。地物のナスとキュウリの漬け物や山菜のてんぷらなど、食べたくてしょうがないのに、上座では遠慮してしまった。もったいない……。市長さんや町長さんに酒を注ぎに来られて大恐縮した。

とりえがあった。関市長さんの話である。

「私が片貝小のPTA会長をやっていた頃、ここの佐平治翁の顕彰碑の拓本をとりに来たのですよ。当時の先生方と一緒に。それを道徳の授業に使ったのです。」

この一言の話が私を揺り動かした。片貝と結東とのつながりを教材化した事実があるという……。

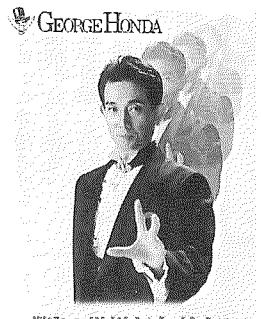
教育のビッグバンと言われる二〇〇二年。新しい学習指導要領の完全実施に伴って、より地域教材が大切になるとき。この佐平治翁の一連の業績に、教材としてどのような価値を見い出せるか。もっと佐平治翁に対し教材解釈に励まなければならない。

子どもに生かせる学習教材の発見は、教師にとって嬉しいものである。

帰途、見玉の不動尊に寄った。みやげもの屋ができたけれど、境内は昔と変わらない静寂さがあった。小川の流水で手を洗う。水は依然として手を切るような冷たさ。

その手で合掌したとき、片貝の歴史と未来にのめりこみそうなアブナさを、改めて感じたのであった。

GEORGE HONDA



驚きの世界が今、始まる

第9回 片貝中学校同窓祭
ジョージ本田／マジックショー
99'10月3日(日) 片貝中学校体育館
開場 PM 5:00　開演 PM 6:00
観会場整理券……1,500円
問合せ先 つどい会(第21回卒)/さざなみ会(第33回卒)
☎84−2131(山村)

ジョージ本田マジックショー

10/3　第9回中学校同窓会

同窓祭実行委員会（浅田広明委員長第21回卒）主催による片貝中学校同窓会総会及び第9回片貝中学校同窓祭が今月3日(日)片貝中学校体育館で開催される。

当日は午後5時からジョージ本田マジックショースタッフ関係者によるマジックグッズの販売。午後6時から片貝中学校の同窓会総会が開かれ、3期6年間同窓会々長を勤めた名塚孝一さんの後任に、つぐみ会（第23回卒）の浅田正平さん（株式会社浅田精機社長）が新会長に承認され、片貝中学校同窓会も浅田体制へと生まれ変わり、その手腕が期待される。同窓祭は午後6時30分から始まり、世界各地で最高のマジックショーを演じているジョージ本田マジックショーの開演。「あなたの目で、不思議な世界を確かめて下さい。」と関係者。詳しいお問い合わせは同窓祭実行委員会へ。

ヤヨイ大学受講者募集

片貝公民館主催の平成11年度高齢者学級「ヤヨイ大学」が次の日程で開講される。

▽10月15日(金)午後1時30分＝片貝公民館で開講式・教養講座「介護保険について」

▽10月18日(月)午後1時＝片貝公民館で「陶芸教室」

▽10月22日(金)午前8時20分＝市外研修旅行「安田方面」

▽10月26日(火)午後1時30分＝片貝公民館で「陶芸教室」

▽11月5日(金)午後1時30分＝忍字亭で「そばづくり」

▽11月11日(木)午後1時30分＝片貝公民館で健康講座「智功で老化防止」

▽2月25日(金)午後1時30分＝片貝公民館で教養講座「片貝と佐藤家の歴史」

▽3月10日(金)午前9時＝市の施設めぐり

▽3月17日(金)午前10時＝永寿荘で閉講式・懇親会、「難病克服の人生体験とマジックショー」

詳しくは片貝公民館☎84−2026へ。

農政セミナー、日本農政の行方

JA片貝町が勉強会開く

「'99農政セミナー」がJA片貝町（友田明石組合長）の主催で去る8月26日午後1時から、JA片貝町三階ホールで開催された。

当日は、管内の農家組合長、JA役職員等百二十名前後が参加して、講師の日本農業新聞・編集制作局報道部長の松原博さんを招いての開催。「最近の農政の情勢」の講演の中で松原部長は「従来の農業基本法は昭和36年に出来たものであるが、当時は限りなく工業に突っ走っており、農村人口が都市部に移動、賃金格差につながっていた。農業のことだけを考えれば良い法律であった。今回成立した農業基本法は、食糧、農業、農村を総合的に捉えた農政における憲法的な役割を果たす法にもかかわらず他に様々な法案の通過があったせいか、マスコミに大きくとり扱われなかった。

大手新聞の中には、重要法案の中に新農業基本法を列記しないものもあった程。今回の法案通過を含めて、最近農民や農業団体は〝どうせ言っても無駄〟とあきらめているのか、おとなしくなっているが、自分達の考えは声に出すなり行動を起こしたりしてアピールすべきではないか。今コメ離れがさらに著しく平成十年産のコメは売れていない。そして今年は豊作が予想されており、作況指数が一〇〇を超えると、一ポイント十万トンが余る。これらの余剰米をどうするかは、JAグループ全体の課題でもある。」と語り会場からの「政府は余剰米をどのように考えているのであろうか」の質問に、松原部長は「国はこれ以上備蓄米を増やすことはしないと明言。外国への援助米としての使途もあるが、国内流通価格は国際価格の三十倍であるので、それだけの税金の投入は行えないのではないか。」と悲観的な見通しを語った。

ジャンボかぼちゃ大会

優勝は阿部さんの147kg

池津町内会では地域おこしの一環として、毎年池津の鎮守、熊野神社の秋祭りに合わせて行なっている第11回池津ジャンボかぼちゃコンテストを8月29日(日)開催した。

今年は雨不足で例年に比べ小粒で個数も少なかったが、六十四世帯から百六十三個（昨年は二百二十七個）の内町外者から十個の出品かぼちゃが、牛を計る体重計で計測され、県道岩野―塚山線沿いの歩道に展示された。今年の最大重量は総合優勝した阿部林四郎さんの百四十七キロ（昨年百キロ）、出品総重量は四千六百五十三（昨年五千六百八十二キロ）。班対抗の団体戦では、総重量が千百九十三キロの第3班が優勝した。

▽重量賞＝①堀井幸造、②横山進、③神林荘一

▽美形賞＝①神林英夫、②神林長蔵、③勝又愛子

▽変形賞＝①小野塚昴平、②勝又五四郎、③堀井麻生

▽特別賞＝神林賢二

一昨年に続いて五度目の個人総合優勝を勝ち取った阿部さんは「朝夕水くれして大きくなりましたが、七年前の百六十七キロの記録に達しなかった。」と語っていた。又、今年十六個出品して特別賞を獲得した神林賢二さんの作品の中に、こけし人形の形をしたかぼちゃに顔と手が書かれた、珍しい一品があった。

この日池津町では午前のジャンボかぼちゃ大会、午後からは熊野神社の神事を行い町内の親睦を深めた。なお、コンテスト個人戦の結果は次のとおり。

▽総合優勝＝阿部林四郎

ハローベイビー

○黒崎悠夏（ゆうか）ちゃん（町裏）

パパ　仁さん（31才）

ママ　純子さん（28才）

第1子長女

平成10年8月12日生

現在の体重7.8kg身長69.5cm

Q名前の由来

A大きな心を持って、悠々と育って欲しいという願いを込めてつけました。「夏」生まれなので、夏という字も入れたかったので、この名前に決めました。

Qお子さんの様子

A初めての片貝祭りで、シャギリの音を聞くとはしゃぎ、花火を見ればいっしょに「ドーン。ドーン。」と言って喜んでいました。爆竹の音にもびくともせず、既に「お祭り女」になっていました。

Qどんな子に育って欲しいですか

A元気でいつも笑顔をたやさず、誰からも好かれる子に育って欲しいと思っています。